

南京・江蘇省美術館所蔵

# 20世紀の中国水彩画

—風景と詩情—



「壮麗なる天壇」李劍晨 1973年

'04年6月8日 [火] — 7月19日 [月]

[渋谷区立松濤美術館]

[渋谷区立松濤美術館] 〒154-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14 電話 03-3465-9421  
JR渋谷駅下車徒歩15分 京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分

●講演会／「中国水彩画の展開と留学生」

6月20日(日)午後2時～ 鶴田武良(中国現代美術研究センター代表)

●開館時間／午前9時～午後5時(ただし、入館は4時30分まで)

●休館日／毎週月曜日(6月14日、21日、28日、7月5日、12日)

●入館料／一般 300円(240円) 小中学生100円(80円)

※( )内は団体10名以上／65歳以上の方及び障害者の方は無料／毎週土曜日は小中学生無料

主催／渋谷区立松濤美術館・読売新聞東京本社・美術館連絡協議会

後援／中華人民共和国駐日大使館 協賛／花王株式会社

# 中

国の水彩画は、欧州や日本への留学生によりもたらされました。紙に水溶性の絵具を用いて描くという技法の上からも、中国固有の国画(紙本淡彩)と共通する面があり、その作品には中国の伝統的な筆法も応用されるなどして、西洋の技法を用いつつも、そこには中国的な独自の展開を見ることができます。

描かれる内容も、建国の熱気あふれる1950年代の作品、そして文革時代の空白期間を経て、桂林・蘇州や長城・西域などの中国の広大なる自然や風物を描いた作品、あるいは少数民族の生活をモチーフにした作品などには中国ならではのものが見られます。また、江蘇省美術館は中国で最も歴史のある美術館で、2000年には全国美術展の一部門として現代水彩画展が開催され現代を代表する作品が収蔵されました。本展ではこうした多様な作品の中から、日本大学で学んだ陽太陽や余鐘志、ヨーロッパに学んだ呉冠中、李剣農などの作品を含む100点を選んで陳列し、20世紀における中国水彩画の概要を紹介したく考えます。

## 【美術映画会】

- 平成16年6月27日(日)午後2時～  
京都の魅力 美のすべてシリーズより「大蔵流狂言 茂山千五郎」  
毎日世界美術館シリーズより「ルーブルへの招待Ⅲ—フランス17～18世紀の絵画」
- 平成16年7月11日(日)午後2時～4時  
毎日世界美術館シリーズより「古典主義からロマン主義へ」  
世界・美の旅シリーズより「ボツィチエリ—フィレンツェのビーナス」

## 【美術相談】

- 平成16年6月26日(土)午後2時～4時  
講師 佐藤善勇(油彩) 粟田口博(水彩)
- 平成16年7月3日(土)午後2時～4時  
講師 磯村敏之(油彩) 遠藤原三(油彩)

## 【ギャラリートーク】

- 平成16年6月19日(土)午後2時～
- 平成16年7月4日(日)午後2時～



「99年の夏」金田 1999年



## 渋谷区立松濤美術館

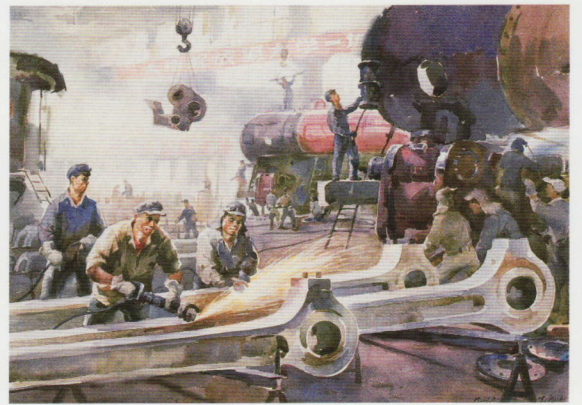
〒150-0046渋谷区松濤2-14-14

☎ 03-3465-9421

- JR渋谷駅下車徒歩15分
- 京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分

## 次回展予告

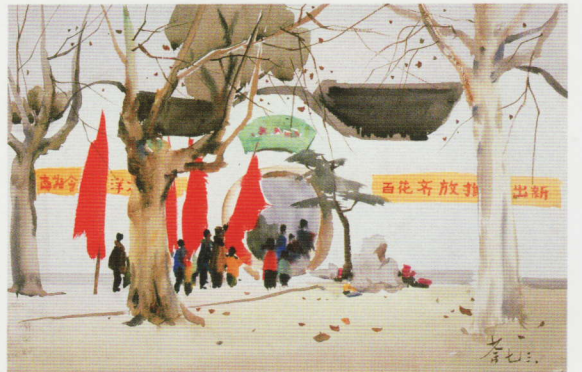
瑛九 QEI 一前衛画家の大きな冒険—  
8月10日(火)～9月19日(日)



「列車工場」楊雲竜 1964年



「青き峯々」季京 1982年



「花展を見る」呉冠中 1973年



「明の椅子」莊弘醒 1993年